

平成 27 年度 鹿背山城なんでも知ろう連続講座④

# 狼煙と鐘の大実験

(第 2 回 鹿背山城のろし大実験)

## 実施報告書

発行：木津の文化財と緑を守る会 平成 28 年 8 月



平成 27 年度 鹿背山城なんでも知ろう連続講座④

# 狼煙と鐘の大実験 実施報告書

(第 2 回鹿背山城のろし大実験)



鹿背山城跡主郭にて『半鐘』を打ち鳴らす 平成 28 年 2 月 14 日午前 9 時 00 分

発行：木津の文化財と緑を守る会 平成 28 年 8 月



## 目次

- 目次…………… 1
- ごあいさつ（木津の文化財と緑を守る会会長 岩井照芳）…………… 2
- 『鹿背山城なんでも知ろう連続講座④』当日のスケジュール…………… 3
- 報告Ⅰ、鹿背山城跡での「狼煙揚げ」と「半鐘打ち鳴らし」について…………… 5
- 報告Ⅱ、各観察地点での観察結果一覧…………… 6
- 狼煙観察写真集…………… 8
  
- 資料① メディア報道記事
- 資料② 使用した半鐘について 講師：田中淳一郎先生
- 資料③ 講演レジュメ『中世の情報伝達方法の狼煙と鐘の音』  
講師：中井均先生
- 資料④ 鹿背山城跡および全観察地の位置図

## ご 挨拶

鹿背山城は中世城郭としては山城国一の大きさを誇り、防御遺構もよく保存され文化財（遺跡）としても価値の高い城であります。この城を、「世に出す」ため、2001年から多くの方が見学しやすいように竹や枯れた雑木の伐採をして、道や曲輪の整備を毎年行ってきました。

同時に、城説明板・メインルートやサブルート案内板・曲輪位置案内板、主郭標柱及び橋の設置、縄張り図の配布等々も行ってきました。

このほかにも、市民がこの城に興味をもっていただく切っ掛けとして「鹿背山城何でも知ろう連続講座」を毎年4回（講演会・城整備体験会・城見学会・狼煙大実験）開催しております。

「連続講座」のなかで中世城郭間の伝達方法を探ろうとするシリーズは3年前から開催しております。第1回目は平成25年度に、今では廃道になっているような中世の道を復元して、鹿背山城から多聞山城までのルートを徒歩で確認する企画でした。

第2回目の26年度には狼煙を上げて伝達方法の実験を行いました。鹿背山城から上げた狼煙は京田辺地域の城館からも確認できましたが、多聞山城や奈良坂では途中の山の木が大きく茂りすぎ（中世では燃料として使うため雑木が大きくなる）狼煙が確認できないことが判明しました。

他にも夜間では煙が確認しづらい点や細かい意思伝達が伝わり難いとの指摘もあり、第3回目の27年度は視覚（狼煙）だけでなく聴覚（鐘の音）も合わせて発信すれば、より明確な意思伝達ができるのではないかと推測し、狼煙と同時に鐘を叩くことになりました。鐘を叩くリズムは4種類で木津秋祭りの御輿太鼓の太鼓を叩くリズムを用いました。異なるリズムにより伝えたい意味がより明確に理解できると考えたわけです。

このように、中世城郭間の伝達方法を考える実験でもいろいろな疑問点が沸き起こり、それらの疑問を解き明かすことが、中世城郭鹿背山城の解明に少しでも役立つのではないかと思います。今後も続けて参りたいと思っております。

今回お借りした鐘は私が若い頃属した旧木津町第一分団第一部の半鐘で、木津本町通り大正橋西側（井関川左岸堤防上）にあった火の見櫓（現在は解体されている）の半鐘ですが、この鐘は、元和東町にあった廃寺の鐘であったことが判明しました。明治の廃仏毀釈で木津に運ばれて二度目の務めをしたのでしょう。

この半鐘は木津川市消防団木津第二分団第一部部長の田邊利基氏のご厚意でお借りし、また、半鐘を叩く木槌は永泉寺の藤川住職からお借りしました。改めて御礼申し上げます。

平成28年8月10日

木津の文化財と緑を守る会  
会 長 岩 井 照 芳

『平成27年度 鹿背山城なんでも知ろう講座④』当日(平成28年2月14日)  
のスケジュール

8:00 狼煙および半鐘の担当者は鹿背山会館前に集合

※担当者：岩井照芳，倉敦，向井憲文，森本幸治，島村勇吉

(いずれも本会会員)

8:30 鹿背山城跡主郭にて機材を準備して待機

観察担当者(6, 7ページに記載)は各持ち場に到着し観察道具を準備、鹿背山城の方角を確認の上、待機。

※狼煙の観察方法は前年度の方法に準じる。

『鹿背山城のろし大実験実施報告書』(木津の文化財と緑を守る会/2015年)参照

※ICレコーダー、スマートフォンなど持参の機材で鐘の音を録音する。(任意)

9:00 鹿背山城跡主郭にて狼煙揚げ及び半鐘の打ち鳴らし(1回目)

狼煙は白色発煙筒(発煙時間5分間)を2本同時に使用し、途中で発煙筒を取り換えて、合計約10分間の発煙を行う。

半鐘は4種類の拍子で打ち鳴らす。(約10分間)

9:00 昼食担当者は昼食会場(木津川市東部交流会館)の準備を開始

(豚汁の仕上げ調理、会場床の養生、テーブルの配置など)

※担当者：岩井紀代子，奥田通子，八木和子，山本美和(以上、本会会員)

向井保美 様，森本道子 様(以上、協力者)

9:30 鹿背山城跡主郭にて狼煙揚げ及び、Ⅲ曲輪にて半鐘の打ち鳴らし

(2回目)

狼煙の揚げ方および半鐘の鳴らし方は1回目と同じ

※気象などの諸条件に変化(悪条件の改善など)をつけて観察するため、30分の時間差をつけて2回の機会を設ける。

※各観察担当者は、狼煙が見えず、鐘の音も聞こえなかった場合、9:10、9:40を過ぎても鹿背山城跡から電話連絡がない場合は『のろし』は揚げ終わったものと判断する。

9:40 観察担当者は各自で木津川市東部交流会館に向かい、観察結果を報告

し、撮影写真および録音のデータをパソコン担当者(会員・森本幸治)に提出する。

※狼煙および半鐘の担当者は、2回目の狼煙揚げと半鐘鳴らしが終わり次第に資材を片付けて下山し、木津川市東部交流会館へ向かう。

※パソコン担当者は各観察担当者から報告および提出された観察結果と撮影写真および録音のデータを整理し、午後の報告会に備える。

11:00 木津川市東部交流会館にて事前応募の小学生観察協力者を対象に「鹿背山城のお話し」を実施 講師：本会会長 岩井照芳

※小学生の観察協力の応募者がなかったため、実施していません。

11:30 昼食会（東部交流会館）

※当会にて豚汁とお茶を無料で提供

※昼食と東部交流会館での片付けが終わり次第に木津川市役所北別館へ移動し午後の講演会および観察報告会に向けた会場の準備を行う。（全員）

13:30 午後の部『講演会・観察報告会』開会

開会挨拶（本会会長 岩井照芳）

13:35 講演『中世の情報伝達方法の狼煙と鐘の音』

講師：中井均先生（滋賀県立大学教授）

14:30 休憩（10分間）

14:40 使用した半鐘の銘の解説

講師：田中淳一郎先生（京都府立山城郷土資料館）

14:50 観察報告会

※鹿背山城跡での狼煙揚げと半鐘鳴らしの報告に続けて、指定観察地からの観察結果を順に報告。後に一般参加者から指定観察地以外の場所からの観察結果の報告を受け付け、最後に中井均先生から観察結果全体に対するご講評を頂く。

16:40 閉会および会場の片付け

#### 小報～第1回 全国のろしサミットに参加しました。～

前回の『鹿背山城のろし大実験実施報告書』の発刊後、平成27年10月25日に米原市で開催された「第1回 全国のろしサミット in 米原」にて、『のろし』を使った地域づくりやイベント等を行っている団体として、『木津の文化財と緑を守る会』の取り組みを発表させて頂きました。また同時に開催されていた「第2回全国山城サミット米原大会」にも参加し、全国各地の『のろし』を用い、また『山城跡』を活かした地域活動を学ぶことが出来ました。

## 報告Ⅰ 鹿背山城跡での「狼煙揚げ」と「半鐘打ち鳴らし」について

### 「狼煙揚げ」の経過および結果について

- 狼煙揚げは前年に行った「鹿背山城のろし大実験」と同じ資材・機材を使用し、同じ位置と高さで行った。ただし、前年の「鹿背山城のろし大実験」では白色と黄色と2種類の発煙筒を使い分けたが、黄色は、発煙しない、煙が重くて上昇しない、見えにくいなどの問題点が多く、利点がほとんどなかった為、今回は白色のみを使用した。『鹿背山城のろし大実験実施報告書』（木津の文化財と緑を守る会／2015年）参照
- 鹿背山城跡主郭で機材の準備完了後、発煙させずに予行演習を実施したところ、前年から使用していた発煙筒巻き上げ用のロープが切れるトラブルが発生。即座に修理を行ったため狼煙揚げ本番には影響がなかったが、次回以降、事前に計画的な機材の点検が必要と思われた。
- 9:00 および 9:30 とともに問題なく各2本ずつ2回の発煙を行った。鹿背山城跡主郭からは木津町ほかの景色がよく見えた。煙は風によって西方に流されがちであったが時折まっすぐに上昇することもあった。

### 「半鐘打ち鳴らし」の経過および結果について

- 鹿背山城跡で刈った竹を組んだ半鐘吊り下げ用の三脚を事前に用意した。
- 9:00 からは鹿背山城跡主郭の東端に、9:30 からは皿曲輪の東端に上記の三脚を設置して半鐘を吊り下げ、それぞれ10分間ずつ撞木で半鐘を打ち鳴らした。
- 半鐘を打ち鳴らす音を情報伝達に用いる場合、打ち鳴らす拍子を変えることで詳細な情報を伝えることが出来る可能性を検証するため、打ち鳴らす拍子を複数種類に変化させ、観察者には、「半鐘を打ち鳴らす音が聞こえるかどうか。」と「半鐘を打ち鳴らす拍子の変化が感じるれるかどうか。」を観察してもらうことにした。
- 半鐘の届く範囲は広くても旧木津町内であることを想定し、木津の人々にとっては耳なじみのある木津秋祭りの御輿太鼓の4種類の拍子を、半鐘打ち鳴らし担当者（岩井照芳）の任意で打ち分けた。
- 2回の打ち鳴らし、合計約20分間、同一人が打ち鳴らし、上記の通りに拍子は変化させたが、意図的に音の強弱を調整することはしなかった。

#### ～鐘の音の観察結果に関する小考～

打ち鳴らす拍子まではっきりと聞き分けられるほど明瞭に聞こえたとの観察報告は皆無で、いずれも周辺の音に邪魔されながら僅かに聞こえたといった報告が直線距離2.2km以内の数カ所から寄せられた。しかし2.2km以内の全地点で聞き取れたわけでもなく、地形や周辺環境、個人の聴力に大きく左右されるようだ。特に、鹿背山集落内ですら聞こえない可能性がある点は重要ではないだろうか。

報告Ⅱ 観察地点での観察結果一覧

地図	観察地		狼煙（白色煙）		鐘の音	
	地名	担当者	1	2	1	2
	観察者のコメント（当日報告時の発言より）					
①	加茂町 海住山寺	会員 後藤啓治	○	△	×	△
	同一人が②観察地を担当したため、2回目は観察せず。					
②	加茂町 瓶原河原	会員 後藤啓治	△	×	△	×
	鹿背山城跡との間を大野山が隔てる。					
③	加茂町 兎並	会員 阿部雄二	×	△	×	△
	同一人が④観察地を担当したため、2回目は観察せず。					
④	加茂町 泉川中学校	会員 阿部雄二	△	○	△	○
	鐘の音は、風の音や鳥の鳴き声に混ざって聞こえた。					
⑤	加茂町 岩船寺	市役所北地区推進室 松本敏也室長	○	○	×	×
⑥	山城町 山城郷土資料館付近	山城郷土資料館 田中淳一郎資料課長	○	○	×	×
	流れる煙がギリギリ樹冠の上に見えた。					
⑦	山城町 JR 上狛駅東	協力者 森本道子 様	○	○	○	×
	鐘の音はわずかに3回ほど聞こえた。					
⑧	木津町鹿背山 西念寺	西念寺副住職 田辺尊史 師	○	×	○	○
	2回目の鐘の音は「聞こえたかもしれない」程度の聞こえ方。					
⑨	木津町鹿背山 半鐘の丘	会員 生田幸広	○	×	○	×
	狼煙はすぐにかき消されたように見えた。 2回目は移動して、JR 関西本線の高架付近（森菊鉄工所付近）で観察。					
⑩	木津町鹿背山 熊沢蕃山旧宅跡	会員 山本美和	×	×	×	×
⑪	木津町鹿背山 大仏鉄道公園	西念寺住職 田辺英夫 師	○	○	×	×
	狼煙は煙の流れまでよく見えた。鐘の音については聴力に自信がない。					
⑫	木津町梅谷 梅谷神社付近	会員 森田省三	×	×	×	×
⑬	木津町木津 木津消防署付近	協力者 向井保美 様	○	○	×	×

観察地		狼煙（白色煙）		鐘の音		
地図	地名	担当者	1	2	1	2
	観察者のコメント（当日報告時の発言より）					
⑭	木津町木津 宮ノ浦木津川堤防	会員 青柳幸彦	○	○	○	×
	1回目の鐘の音は1度「カン～」と聞こえたが、あとは電車や自動車、風、竹林などの音で聞こえなかった。					
⑮	木津町木津 木津グラウンド堤防	会員 石田達夫	○	○	×	×
	鐘の音は周囲の音に紛れたのかもしれない。					
⑯	木津町吐師 下河原堤防	会員 宮園伸也	×	×	×	×
⑰	木津町吐師 吐師浜木津川堤防	会員 西野篤	○	○	×	×
	周囲に音がある。					
⑱	木津町吐師 山田川河口河川敷	会員 白井繁夫	○	○	×	×
⑲	木津町木津 城址公園	滋賀県立大学 中井均教授	○	○	○	○
	耳をすませばかすかに聞こえた。					
⑳	木津町木津 井関川極楽橋	会員 北村雅昭	○	○	×	×
	周りにいろいろな音があり、障害なっているのかもしれない。					
㉑	木津町木津 ふれあい広場	会員 藤本信介	○	○	×	×
	周辺に音がある。					
㉒	木津町相楽 曾根山	会員 奥田芳昭 会員 奥田通子	○	○	×	×
	近辺で第三者にも確認したが、やはり「聞こえなかった。」とのこと。					
㉓	木津町州見台 州見台公園造山	会員 松田栄彦	×	○	×	×
	城跡公園の竹林が間に隔たっていたが、2回目の狼煙については拡散した煙が見えた。					
㉔	木津町吐師 南山城支援学校付近	会員 山本正来	○	○	×	×
㉕	木津町木津 木津高校	会員 平瀬義治	○	○	×	×
	グラウンドでクラブ活動中だった野球部の関係者も一緒に観察してくれた。狼煙は1, 2回目とも見えたり見えなかったりを繰り返した。					

狼煙観察写真集



↑①海住山寺から1回目の狼煙を撮影



↑③兎並からは狼煙は見えない



↑④泉川中学校から2回目の狼煙を撮影



↑⑤岩船寺から狼煙を観察



↑⑤岩船寺から見た狼煙（拡大）



↑⑥山城郷土資料館付近から狼煙を観察



↑⑦JR上狛駅東側から狼煙を観察



↑⑩大仏鉄道公園から狼煙を観察



↑⑪大仏鉄道公園から見た狼煙（拡大）



↑⑭宮ノ浦木津川堤防から狼煙を観察



↑⑰吐師木津川堤防から狼煙を観察



↑⑱吐師木津川河川敷から狼煙を観察



↑⑳井関川極楽橋から狼煙を観察



↑㉑曾根山から狼煙を観察

※平成27年2月1日に行った「平成26年度 鹿背山城なんでも知ろう連続講座⑥ 鹿背山城のろし大実験」では発煙筒を用いた狼煙の観察実験をより広範囲で行いました。是非『鹿背山城のろし大実験実施報告書』（木津の文化財と緑を守る会／2015年）をご参照ください。

読売新聞 2016年2月2日 京都版朝刊 26 ページ

ダウンロード版では新聞記事の画像は削除してあります。  
必要な場合は記事の日付を手掛かりに新聞社、図書館等でお探してください。

京都新聞 2016年2月27日 山城版朝刊

ダウンロード版では新聞記事の画像は削除してあります。  
必要な場合は記事の日付を手掛かりに新聞社、図書館等でお探してください。

朝日新聞 2016年2月18日 南京都版朝刊27ページ

ダウンロード版では新聞記事の画像は削除してあります。  
必要な場合は記事の日付を手掛かりに新聞社、図書館等でお探してください。

資料②使用した半鐘について（写真）



木津本町 大正橋脇の火の見櫓の半鐘について 二〇一六年二月一四日  
山城郷土資料館 田中 淳一郎

大きさ 高さ約四五センチメートル、径二七・五センチメートル

時代 江戸時代 延宝七年（一六七九）

### 銘文

（第一区）

山城州相楽郡

和東庄富景山

医（醫）光禪寺

（第二区）

擊槌偈曰

願諸賢聖同入道場 （願わくば諸の賢聖と同じく道場に入り）

願諸悪趣俱時離苦 （願わくば諸の悪趣と俱に苦を離れん時）

延宝七己未曆

霜月吉祥日

\* この銘文は、鎌倉時代以降、多くの梵鐘・半鐘の銘として見られるものだが、  
出典は不明。

後段は、あるいは「願諸悪趣、聞此鐘声、俱時離苦」とするものもある。

### ◎ 「和東庄富景山医光禪寺」（医光寺）

- ・ 和東町撰原にあった、正法寺末寺の寺院。臨済宗永源寺派。廃寺。
- ・ 正法寺は、和東町南にある臨済宗永源寺派の寺院。  
寺伝では、天平年間に安積親王の菩提を弔うため建立されたという。  
江戸時代・正保元年（一六四四）に再興され、臨済宗正法寺と改めた。

『鹿背山城なんでも知ろう連続講座』第5回

2016/02/14

## 中世の情報伝達方法の狼煙と鐘の音

中井均(滋賀県立大学)

## ◆はじめに

- ・「今日沢蔵軒宗益同内堀率山城衆、越宇治川而入山城、以攻城而破御厨子之城、斬頭者夥矣、今夜城中之東南不举烽、不鳴鐘矣、少康耳、」(『鹿苑日録』明応8年(1499)9月26日条)

細川政元の命を受けた沢蔵軒宗益(赤沢朝経)が被官である内堀氏とともに山城衆を率いて宇治川を越えて山城に入り、政元と敵対していた畠山尚順の城であった御厨(水主)城を攻める

烽と鐘の存在 ⇒ 連絡手段としての烽と、火急を知らせる手段としての鐘

## ◆烽

- ・「凡置烽皆相去卅里。若有山崗隔絶。須遂便安置者。但使得相照見。不必要限卅里。」(『令義解』「軍防令」置烽條)
- ・飛山城跡(栃木県宇都宮市) ⇒ 堅穴住居 SH8 より「烽家」と書かれた墨書須恵器杯が出土【平安時代の烽長、烽子の居住していた住居跡か】
- ・三ツ城跡(広島市) ⇒ I 郭より1間×1間の掘立柱建物と土坑を検出【15世紀前半～16世紀前半】  
土坑 ⇒ 直径1.8m、深さ1.2m【焼土と炭化物を含む黒色土が重なった層と地山層が3層ずつ重なりあって堆積】  
狼煙と考えられる遺構
- ・粟生城(三重県多気郡大台町) ⇒ 主郭のほぼ中央から2つの焼土坑を検出【14世紀後半～15世紀前半】  
土坑 ⇒ 焼土坑【烽火の可能性】
- ・今市城(広島市佐伯区) ⇒ 5基の土坑【15世紀前半～15世紀中頃】  
炭化物を多量に含む黒色土 ⇒ 狼煙の可能性が大

## ◆鐘

- ・「一、他所与同名之衆弓矢喧嘩之時、於鐘鳴者、惣庄之百姓等、至堂僧迄、悉得道具ヲ持、可罷出者也」(『大原同名惣与掟条々』永禄13年:1570)
- ・城跡に残された小字、伝承 ⇒ 鐘、鐘搗堂、鐘ノ丸
- ・増山城(富山県砺波市) ⇒ 二之丸北東隅「鐘撞堂」、二之丸南西側の帯曲輪(通称無常)南端「鐘撞堂」【天保11年(1840)作成「砺波郡般若組増山村御林并城跡之間右村等隠開田

## 資料③中井均先生 講演資料

### 【島等見取絵図】

※天保 15 年(1844)作成絵図には「早鐘撞堂」と記されている

- ・津久井城(神奈川県相模原市) ⇒ 「鐘つき堂跡」と呼ばれる 2 段の平場
- ・鐘撞堂山(埼玉県寄居町) ⇒ 鉢形城への敵の襲来を鐘を撞いて知らせたという伝承  
鉢形城が落城するとこの山に設けられていた鐘撞堂も取り壊されたとも伝えられている
- ・小谷城(滋賀県長浜市) ⇒ 浅井氏三代 50 年の居城【本丸に「天守トモ 鐘丸トモ」と記されている絵図(彦根藩井伊家文書「小谷城絵図」)】
- ・鐘撞堂の地名が残る城跡 ⇒ 勝山城(石川県鹿島町)【鐘撞堂】、春日山城(新潟県上越市)【鐘撞堂】、霧山城(三重県津市)【鐘撞堂】
- ・山梨県内の事例 ⇒ 船津鐘撞堂(川口湖町)、近ヶ坂鐘つき堂(都留市)、道志鐘撞山(道志村)、大石鐘撞戸(川口湖町)、花咲撞鐘堂(大月町)
- ※花咲撞鐘堂 ⇒ 堀切や土塁を設けた単郭の小規模な城郭施設

### ◆おわりに

- ・烽や鐘は特殊な施設ではない ⇒ 『鹿苑日録』に記された御厨城のなかにも存在【普通の村の城にも構えられた施設】  
城館に必ず備えられた情報伝達施設であった
- ・寺院に吊るされた鐘 ⇒ かつて城内や陣鐘であった伝承をもつものも少なくない  
願乗寺(滋賀県米原市)【「当寺に來りし由来に就きては審になし得ず。一説、羽柴秀吉、陣鐘に徴発後、此処に留めしものと云ひ、」『改訂近江国坂田郡志』】  
龍譚寺(滋賀県彦根市)の半鐘【佐和山城にあった陣鐘の伝承】
- ・戦いの鐘は明治に至っても用いられた ⇒ 靖国神社遊就館所蔵の半鐘【明治 10 年(1878)の西南戦争で薩軍が用いた陣鐘】

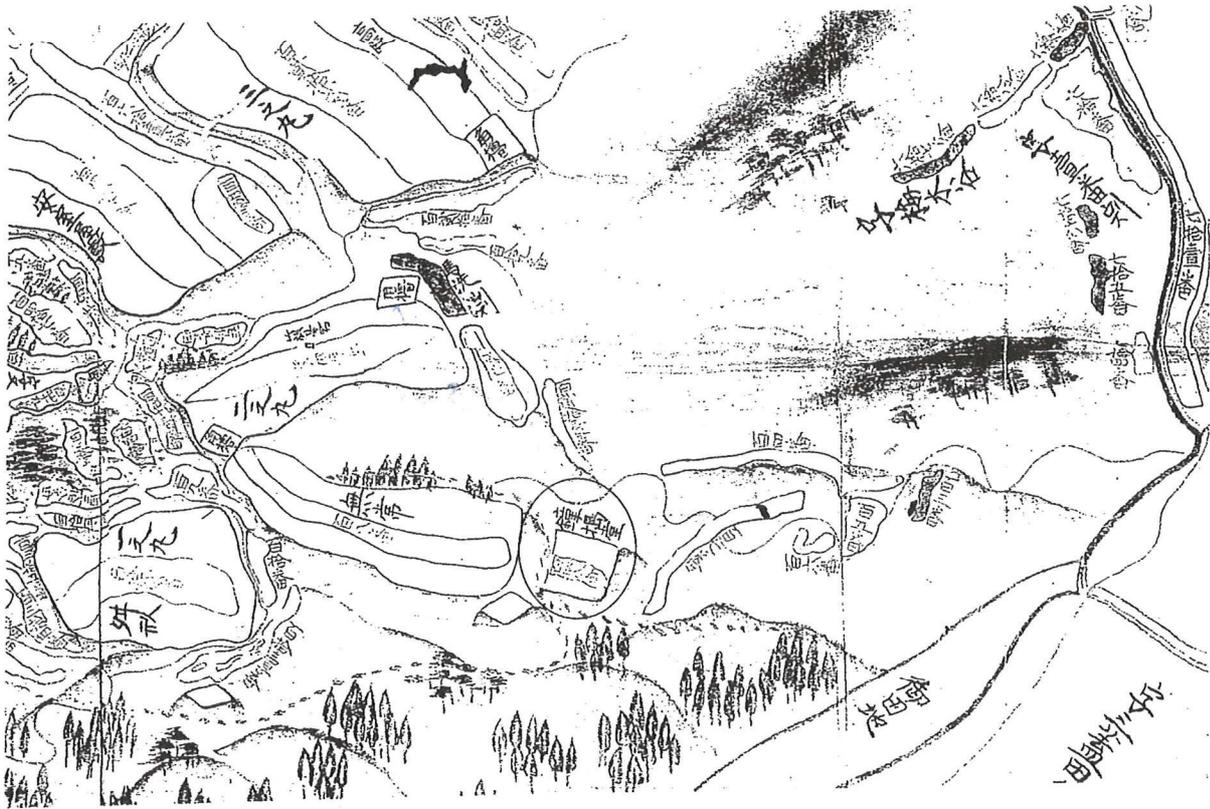


図1 増山城跡絵図に描かれた鐘撞堂

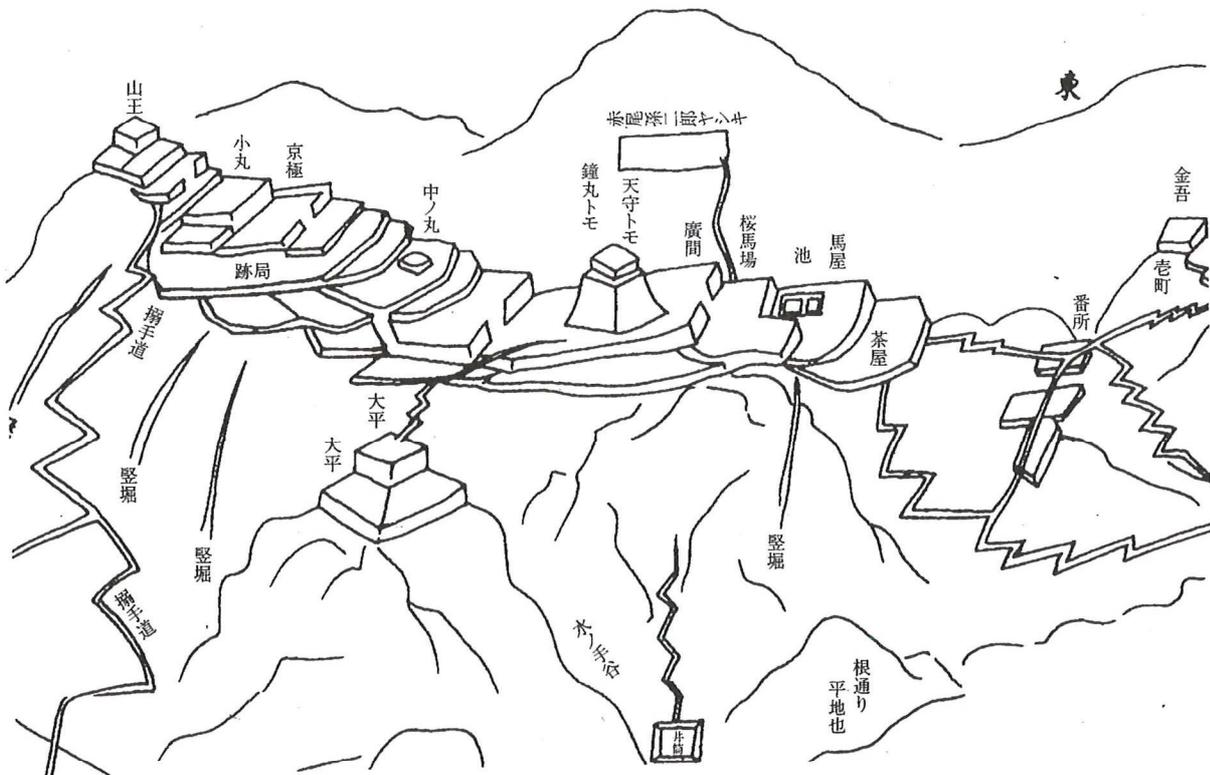


図2 小谷城跡絵図に描かれた鐘丸

